

149号 日本比較文学会 東京支部

Newsletter

7月例会

日時:7月19日(土)14時より
(オンラインおよび対面のハイフレックス方式
開催、Zoom URLは後日配信)

会場:早稲田大学戸山キャンパス
33号館3階332教室

講師:早稲田大学 草野慶子

題目:ジナイーダ・ギッピウスにおける
＜動物/動物性＞

司会:筑波大学 加藤百合

9月例会

日時:9月20日(土)14時より
(オンライン方式での開催、Zoom URLは後
日配信)

講師:北京理工大学 周晨亮

題目:「雄大」と「風流」——正岡子規と夏目漱石
による漢詩、文人画の比較研究——

司会:東京科学大学(名誉教授) 劉岸偉

Table of Contents

1. 7月・9月例会案内
2. 例会要旨等
3. 例会会場
4. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2025年9月例会終了後、オンラインで
開催します。
(役員連絡会の構成員は支部長、事
務局長、会計を含む事務局委員、各
種委員会委員長です。委員会の委員、
幹事は含まれませんが、陪席を歓迎し
ます)

*ZoomミーティングのURLについて
は、開催1週間前にお知らせします。

幹事会開催のお知らせ

第1回幹事会:

2025年7月例会終了後、オンラインお
よび対面のハイフレックス方式で開催
します(幹事会構成員は、幹事、支部
長、事務局長、各種委員会委員長で
す)。

*ZoomミーティングのURLについて
は、開催1週間前にお知らせします。

7 月 例 会 発 表 要 旨

ジナイーダ・ギッピウスにおける ＜動物/動物性＞

早稲田大学 草野慶子

ジナイーダ・ギッピウス(Гиппиус, Зинаида Николаевна 1869-1945)は19世紀終わりにロシアの文壇に登場、革命後に亡命しパリで亡くなるまで、詩と散文、戯曲、批評など多くの分野で活躍した。今回の発表では特に1900年代のギッピウスの作品、評論を取り上げ＜動物/動物性＞という主題を追う。具体的には、ハンス・クリスチャン・アンデルセンの『人魚姫』(Den lille Havfrue)1837)が原案のひとつとなっている戯曲『聖なる血』(Святая кровь)1901)や、otto・ヴァイニングアーの『性と性格』(Geschlecht und Charakter)1903)の批判的読解を提示する評論、それと深いつながりを持つギッピウスの詩作品などが考察の対象となる。

現在のギッピウス研究の主たる流れは、ジェンダーやセクシュアリティ研究と関わっている。たとえば、恋をせず犠牲を払わず自らを殺めることのない半獣半人の人魚を主人公とする『聖なる血』は、『人魚姫』のフェミニズム的翻案であるとすでに論じられており、また『性と性格』を、女性詩人としてのギッピウスが女性の創造という観点からも批判するのは道理である。本発表はこうした立場を共有しつつ、動物として存在し、また動物に化身するということに託された創造主体の問題を論じる。

ギッピウスはその作品において動物の形象を多く用いたが、男性優位の当時の文壇においては作風や外貌、身体的特性のために彼女自身が蛇や蜘蛛と名指され、動物を用いて揶揄された。この差別的視線をギッピウスがどのように受けとめ、自身のパブリックイメージを操作したかをも含め、女性として書くことの可能性と不可能性、女性性という定義の流動性への感性が、ギッピウスにとっての動物/動物性の問題だと発表者は考えている。生殖、衣装といった他の問題群と関連させつつ論じ、また日本のモダニズム詩との同時代的アナロジーについても言及したい。

9 月 例 会 発 表 要 旨

「雄大」と「風流」 ——正岡子規と夏目漱石による漢詩、文人画の比較研究——

北京理工大学 周晨亮

正岡子規と夏目漱石は共に近代文学成立期に、韻文や小説など各々の分野において意欲的な探求の足跡を残した。明治、大正時代の多くの知識人がそうであったように、子規と漱石は漢文学に造詣が深く、漢詩文に深く傾倒した時期もあり、自らも多くの詩作を残した。戦後になって、子規と漱石の漢詩はそれぞれの文学観を解析する重要な手掛りとして、次第に研究者の関心を集めるようになった。

子規の漢詩は題材が多岐にわたるが、総じて山水漢詩の数が多く、とりわけ明治二十五年に『日本』に掲載された『岐蘇雜詩』連作が子規漢詩の最高峰であることについては、衆目の一致するところであろう。一方、漱石はもっぱら文人趣味に傾いており、とりわけ無題詩の連作は晩年の心境を物語る傍証としてよく引合に出される。

漢詩のテキストを比較することで、子規が写生主義の視点から日本に実在する山水に潜んでいゝる「雄大」さを求めているのに対して、漱石は意象、典故などのレトリックを活用し、文人画的な山水に「風流」さを求めているという違いを明確に示したい。両者の創作がいずれも明治文学の展開に深く関わるものであったがゆえに、それぞれの漢詩の特徴とその目指すところから、明治から大正へと至る、文学者たちの漢詩受容の軌跡をうかがい知ることができる。

近代以降、伝統的な表現手法が拠る最も堅固な陣地たる韻文の領域においては、和歌、俳句、そして漢詩と、活発な創作活動と革新が行われていったが、いち早く絶頂期を迎えたのは漢詩で、その影響は波紋のように和歌、俳句へ広がっていった。本発表ではまず、格律（漢詩の作法）、手法などの視点から子規の『岐蘇雜詩』と漱石の無題詩を中心に解析を行い、次いで、その文人画創作に焦点を当てて、二人の美意識の差異、及びそれぞれの詩作との関連性を探ってみたい。

7 月例会会場

7月例会は早稲田大学戸山キャンパス(文学学術院)で開催されます(下図参照)。キャンパス内については、当日の掲示にしたがってお進みください。

〒162-8644 新宿区戸山1-24-1

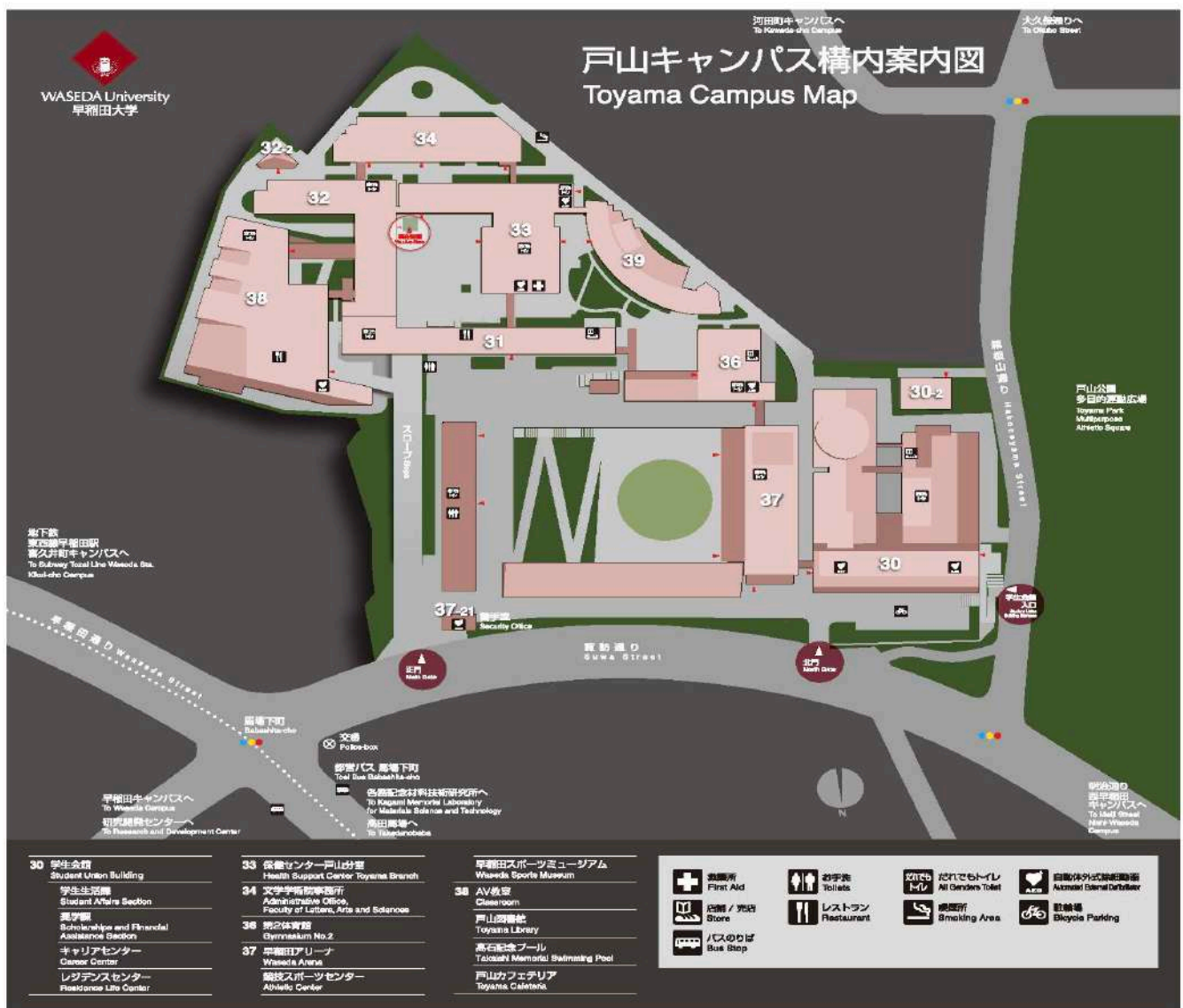
電車で: JR山手線 高田馬場駅から徒歩20分

西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分

地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩3分

副都心線 西早稲田駅から徒歩12分

バスで: 学バス 高田馬場駅 - 早大正門、馬場下町バス停



東京支部短信

東京支部役員について

2025年6月7日に開催された日本比較文学会の総会の開催時をもって、東京支部も新しい役員体制となりました。新役員は以下のとおりです。

支部長／寺田寅彦
事務局長／庄子ひとみ

◎幹事

石原剛 草野慶子 小松原由理 斎藤一 佐藤宗子 鈴木美穂 中地幸 西原大輔
畑中健二 堀江秀史 南明日香 宗形賢二

◎編集委員会

委員長:鈴木美穂
委員:岩下弘史 亀井伸治 越野剛 中垣恒太郎 廣瀬絵美

◎運営委員会

委員長:内山加奈枝
委員:衣笠正晃 草野慶子 實谷総一郎

◎企画委員会

委員長:佐々木悠介
委員:井上健 菊池有希 ソートン不破直子

◎倫理綱領委員会

委員長:金田由紀子
委員:斎藤恵子 須田満 平石典子

◎大会準備委員会(2025年度大会まで)

委員長:小松史生子
委員:井上健 加藤百合 佐々木悠介 佐藤宗子 庄子ひとみ 寺田寅彦 廣瀬絵美
宗形賢二 和田桂子

◎事務局委員会

事務局長:庄子ひとみ
会計担当委員:土田久美子
委員:小泉泉 芳賀理彦 畑中健二 蒔田裕美

◎会計監査:日中鎮朗 堀啓子

各委員会委員長については、5月17日開催の臨時幹事会において選任されました。各委員会委員については、委員長による選任となり、年度途中での追加の選任があり得ます。東京支部として新役員体制での最初の行事となる7月例会・幹事会までは、各委員会の引継ぎ期間となりますことをご了承ください。

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。研究論文投稿資格を有する者は当面、東京支部会員のすべてとします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は以下の通りです。ふるって投稿ください。お待ちしております。

日本比較文学会東京支部 編集委員会委員長 鈴木美穂

hikaku.tokyo.henshu@gmail.com

詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。

申し込みは支部事務局 comp.lit.tokyo@gmail.com に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

支部からのお知らせ

今年度の日本比較文学会全国大会も盛況のうちに幕を閉じましたが、来年度は関西学院大学で6月13日～14日に開催予定です。また、2025年のICLA大会はソウルの東国大で7月28日～8月1日まで予定されています。東京支部からも多くの会員の方に発表または参加いただければ幸いです。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト<https://www.hikakutokyo.com/mm>のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスにて再登録をお願いします。

東京支部事務局メールアドレスの変更について

7月1日付でスタートする新体制に伴い、事務局のメールアドレスが変わります。

新メールアドレス: comp.lit.tokyo@gmail.com

日本比較文学会 東京支部
ニューズレター
149号

発行人：寺田寅彦

編集委員会（編集担当）

委員長：鈴木美穂

委員：岩下弘史 亀井伸治 越野剛
中垣恒太郎 廣瀬絵美

事務局

事務局長：庄子ひとみ

会計担当委員：土田久美子

委員：小泉泉 芳賀理彦 畑中健二
蒔田裕美

JCLA

日本比較文学会
東京支部事務局

* 2025年7月1日付で新体制となり、
以下の新事務局になります。

〒270-1695

千葉県印西市平賀学園台1-1
順天堂大学さくらキャンパス
庄子ひとみ研究室

E-mail:

comp.lit.tokyo@gmail.com